

<http://www.japanplatform.org/we/index.html>

平成19年度グローバルに活躍できる「広島っ子」育成事業

## 第二回「国際交流体験プロジェクト」を実施

(江田島セミナー合宿4日目)



〔プログラム〕

マスメディアを通して見る日本と国際社会の係りに

関する講義・ワークショップ(8月2日)

講義テーマ「メディアから見た国際社会と日本」

講師：原田勝広氏(日本経済新聞編集委員

(特活)ジャパン・プラットフォーム理事)

〔講師プロフィール〕

愛知県生まれ。上智大学外国語学部卒業後、1974年日本経済新聞社入社。サンパウロ特派員として内戦のエルサルバドル、ニカラグアなど中南米33カ国の政治・経済を取材、米州総局(ニューヨーク)駐在の特派員時代は冷戦終焉後、活発な動きを見せた国連を担当、新たな使命をおびたPKOの動きやカンボジア、コソボを現地取材。「9・11」のテロ後もアフガニスタン、イラク、東ティモールに入り、激動する国際情勢を負い続ける一方、紛争地での人道支援活動を行うNGOを徹底的に取材、この分野での先駆的なジャーナリストである。

国際部次長を経て現在、編集委員。1980年度日本新聞協会賞を受賞。



〔内容およびスタッフ感想〕

日本経済新聞編集委員である原田勝広さんの「メディアから見た国際社会と日本」というテーマの講義では、現在の様々なグローバル化してきている問題に対して、政府、企業、NGO・NPOや社会企業家などがどのような活動を行っているか、具体的な活動の例も挙げながら説明を受けた。

そして説明後、グループにわかれて討論を行った。環境、女性、人権、NEET、子ども教育、高齢者などから今起こっている問題を見つけその解決方法としてどのようなものがあるか話し合いをした。時間の関係上深い討論はできなかったが、環境についての発展途上国の権利、NEETの問題における個々の家庭の大切さなど、各グループが自由に活発に意見を出し合っていた。【広島修道大学3年：品川仁志】

〔江田島セミナー合宿に関わって...スタッフ感想〕

『国際交流体験プロジェクト』に参加して、本当に良かったと思います。高校生と一緒に何かを作っていくという経験は初めてで、普段とは違う新しい発見が多くありました。また、島で生活をしてみて、ゆったりとした時間の流れを感じることもでき、充実した4日間を過ごせました。

4日間にわたって行われたグループ会議では、12月の報告会に向けてさまざまなアイデアが出て、どんなことをやっていくかが決まりこれから楽しみです。12月まで一緒に新しいものを作っていけることが今から楽しみでしかたがありません。このプロジェクトをみんなの力で成功させていきたいと思います。【広島大学4年：川崎阿由美】



「この表現って英語でどう言うのかなあ。」異なる言語間でのコミュニケーションの困難さを前に、日本の高校生が国際語としての英語を使おうとした時に呟いた言葉である。『国際交流体験プロジェクト』に参加し、私は子どもたちの各活動での無限の創造力、コミュニケーションに対する積極性を感じ、国際交流を通して彼らの中にみられるuniversalityを学ぶことができた。また、英語をはじめ日々の学習と国際的な視点で世界を見つめ、考えていくことが、子どもたちにとってわかりやすくなつていくことの大切さにも改めて気付かされた。今回のキャンプは、日本の高校生や留学生はもちろん、このプロジェクトに関わった全ての人にとって、目の前にいる友達と話がしたい、わかり合いたいという気持ちで言語を学び、世界に向き合おうという姿勢を見出すきっかけとなる貴重な体験となったのではないだろうか。

【広島大学4年：齋藤智子】